

所報

<Shoho>

川崎市総合教育センター

〒213-0001 川崎市高津区溝口 6-9-3

TEL 044-844-3600

代表メール KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp

ホームページ http://www.keins.city.kawasaki.jp/

多様な学びへのシフト ～「ゆうゆう広場」改革への挑戦～

川崎市総合教育センター 所長 **大野 恵美**



令和5年度、心理・社会的な要因などで学校に年30日以上登校しない児童生徒数は、過去最多の34万6483人となり、前年度から4万7434人増加で、初めて30万人を超えました。川崎市立学校においては、小学校は1,435人、中学校が1,826人と過去最多です。

コロナ禍が過ぎた後の子どもの心の変容を見て、令和5年3月31日に文部科学省から誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」が示されましたが、本年7月に川崎市においても、「不登校対策の充実に向けた指針」が策定されました。指針の方向性として、チーム学校による校内支援の充実、多様な教育機会の確保、関係機関との連携強化が示されています。

「ゆうゆう広場」は、川崎市総合教育センターが運営している教育支援センターであり、少人数での創作・表現・体験活動や学習活動等を実施するとともに、教育相談やGIGA端末等を活用した個に応じた支援を着実に行ってきました。

また、ゆうゆう広場の目的のひとつに、「家族以外の第三者とかかわりを持ち、人間関係の作り方を学ぶ」ということがあります。年齢が近い大学生・大学院生のボランティア(メンタルフレンド)とかかわりやALTとの英語を通じたふれあいなど、様々な人たちとかかわりあえる場所としての改革も行ってきました。

このような中、令和5年度の通所登録者数は252名で過去最多となり、今年度は、学校との連携強化や、不登校相談会の実施で、登録者数が昨年度より増加しています。「ゆうゆう広場」がこれまで以上に子どもの居場所としての機能を果たし、安全安心な環境の下で、自主性の育成や人間

関係の適応性の向上を図る中で新しい自分を見つけ、自分の可能性を伸ばす場所として、更なる充実を図って行きたいと考えているところです。

ところで皆さんは、「ゆうゆう広場」の名前の由来をご存じですか。

- | | |
|-------|----------------|
| ① 遊々 | ちょっと楽しめる場所 |
| ② 悠々 | 自分のペースで生活できる場所 |
| ③ 優々 | 自分にも優しくできる場所 |
| ④ YOU | ありのままの自分になれる場所 |

人との関係がうまく築けず、引きこもってしまったり、あるいは暴れてしまったりする要因の1つに「不安」があります。複雑に絡み合った不安の糸を丁寧にほぐしていくには相当の時間を要しますが、遊々、悠々、優々、YOUを意識しながら「できる」「できない」で判断せずに、「やってみよう」という気持ちをいかに引き出せるかが大切だと痛感しています。

学校に来ない子ども、教室に入ろうとしない子どもの心の叫びを、大人がどう捉えるか。課題は山積していますが、今後も学校、地域、家庭等をはじめ、様々な方の力を借りながら、センターも一丸となって「ゆうゆう広場」の改革に挑戦し続けていきます。

令和6年度『所報』第2号 主な内容

【巻頭言】

多様な学びへのシフト……………1

【特集】ゆうゆう広場(教育支援センター) … 2・3
(教育相談センター)

すべての児童生徒が「わかる」を実感でき … 4
る授業を目指して(カリキュラムセンター)

かわさきGIGAスクール構想の実現に向けて … 5
(情報・視聴覚センター)

川崎市総合教育センターでの相談について … 6
(特別支援教育センター・教育相談センター)

ゆうゆう広場は、いわゆる「教育機会確保法」という法律で認められている学校以外の学びの場（教育支援センター）です。子どもたちの安心・安全を大切にしながら、自分の「良さ」を発見したり、再確認したりできるよう、さまざまな活動をしています。市内在住の小中学生または市内の学校に通う小中学生で、心理的な理由や様々な事情から学校に行けない、もしくは行きにくい状態になっている子どもたちが対象です。それぞれのペースで社会的自立に向けた準備を進めていきます。

「みゆき」にて モデル事業展開中！

ゆうゆう広場の機能拡充に向けたモデル事業を、ゆうゆう広場みゆきにて行っています。学校との連携をさらに強化し、従来の相談員に加え、新たに有償ボランティアと学習支援員を配置し、基礎学力の定着やコミュニケーション力の育成など、利用者一人一人の状態やニーズに応じたプログラムを実施しています。

また、学校や教室とは違う安心して過ごしやすい環境・雰囲気づくりをしています。令和6年度よりすべての広場において小学校高学年児童の保護者による送迎義務を緩和しました。これらの新しい試みを通して、子ども一人一人の自己肯定感や学習意欲の向上を図り、学校復帰や社会的自立に向けた一歩につなげていきます。

今後も居場所としての機能に加え、基礎学力の定着やコミュニケーション力の育成、地域の拠点として在籍校との連携の強化、地域の保護者に対する情報発信や相談会の開催など、教育支援センターとしての機能の充実にに向けた取り組みを進めていきます。

ゆうゆう広場みゆき こんなところが変わりました

学習機能の強化

国語・算数・数学・英語の個別学習指導をしています（週3回）



穏やかな雰囲気の中、可動式の机といすを使って学習する場所を自分で選びながら講師にわからないことをきくことができます。

居場所機能の充実

ゆったりコーナーを開設しました。リラックスできる空間で過ごすことができます。



大きなビーズクッションやぬいぐるみを置いています。ほっとできる場所です。

ソーシャルスキル（コミュニケーション力など）の育成

様々なプログラムを実施しコミュニケーション力向上を図ります。

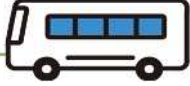


卓球やビリヤード、ボードゲームなど友達と交流しながら遊べるものが充実しています。

自分で選んで 自分のペースで

楽しい社会見学（月1回）

専用バス「ゆうゆう広場号」を利用して、広場ごとにでかけます。
食品工場・動物園・博物館
空港 など



イベントもたくさん！思い出もたくさん！

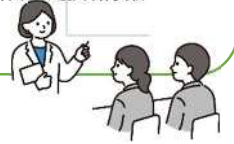
- ・夏祭り
- ・サマーキャンプ
- ・親子ふれあい活動
- ・プラネタリウム鑑賞

図書館やスポーツセンター、地域散策にも出かけます。



保護者の会や不登校地域 相談会も実施しています

不登校経験者の話、座談会
個別相談 進路情報



利用の仕方は人それぞれです。毎日でも、学校と併用でも、短い時間でも。自分がやりたいことから始めたり、気持ちや体調に合わせて決めたりすることができます。

ゆうゆう広場で過ごす時間は「宝探し」の時間

いつ来ても
いつ帰っても
大丈夫！

9:40~10:20 学習タイム 5教科を中心とした自主学習活動

10:30~12:00 ふれあいタイム 体験活動（創作・スポーツ・調理など）

13:00~13:40 ゆったりタイム 自主活動（学習・読書・卓球・ビリヤードなど）

14:00~15:00 マイタイム 自主学習や相談、趣味や特技に没頭する時間



こんなときは、ご相談ください

体調を崩して長期間欠席したので、長時間の授業に参加できるか心配

集団が苦手で、緊張感が続いている

友人関係・人間関係が原因で登校しづらい

何をやるにも自信が持てない



随時 見学・申し込みを受け付けています

申込は電話または
二次元コードから
TEL522-3534

事前相談、
見学

学校長の
同意

利用開始



（教育相談センター）

◇川崎市学習状況調査の結果と授業改善の視点

令和5年から新しくなった川崎市学習状況調査の特徴として挙げられるのは、経年比較と4層分析ができる点です。今年度は調査2年目となり、同一集団の経年変化が見られるようになりました。調査結果の概要は次のとおりです。

○教科調査 ※次の表の数値は、平均正答率(%)とC層とD層の差(ポイント)

【小学校2教科(国語、算数)・中学校5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の平均】

年度・学年	2教科・5教科の平均正答率	学力層別の2教科・5教科平均正答率				C層とD層の差
		A層	B層	C層	D層	
令和6年度 小4	69.3	91.7	79.4	66.3	39.6	26.7
令和6年度 小5	62.7	88.7	72.8	57.0	32.5	★ 24.5
令和5年度 小4	71.0	92.2	80.9	68.6	42.3	26.3
令和6年度 小6	61.5	88.5	71.2	54.7	31.7	★ 23.0
令和5年度 小5	67.6	90.9	77.6	63.2	39.4	23.8
令和6年度 中1	65.0	86.2	72.7	60.7	40.2	20.5
(令和5年度 小6※)	(66.7)	(90.6)	(76.4)	(61.2)	(38.5)	(22.7)
令和6年度 中2	56.2	83.2	64.4	48.3	29.0	★ 19.3
令和5年度 中1	65.5	87.0	73.3	60.9	40.9	20.0
令和6年度 中3	57.7	84.6	67.8	50.5	28.0	22.5
令和5年度 中2	57.7	82.7	66.3	50.8	31.3	19.5

※「令和5年度 小6」の数値は、「令和6年度 中1」と教科数や受検者数が異なるため参考値とする。

○学習意識調査 ※次の表の数値は、それぞれの肯定的な回答(授業が「よくわかっている」「まあわかっている」)割合の平均値(%)

【理解度(小学校2教科・中学校5教科の平均)】

年度・学年	肯定的な回答割合(平均)	学力層別の肯定的な回答割合				同一集団における経年変化(D層の差)
		A層	B層	C層	D層	
令和6年度 小4	85.4	94.7	89.7	84.4	72.5	-2.1 ポイント
令和6年度 小5	85.3	96.2	90.7	84.0	◆ 70.5	
令和5年度 小4	85.6	94.7	90.1	84.7	72.6	-1.7 ポイント
令和6年度 小6	83.9	96.0	90.3	81.7	67.7	
令和5年度 小5	84.6	95.5	90.1	83.6	69.4	-10.5 ポイント
令和6年度 中1	71.7	89.9	77.9	67.8	50.5	
(令和5年度 小6※)	(83.6)	(96.4)	(90.2)	(81.1)	(66.9)	-3.4 ポイント
令和6年度 中2	66.0	90.1	75.5	59.3	◆ 39.7	
令和5年度 中1	71.1	90.1	78.9	65.8	50.2	
令和6年度 中3	65.9	90.5	77.2	59.7	36.9	
令和5年度 中2	66.7	90.5	76.8	59.9	40.3	

※「令和5年度 小6」の数値は、「令和6年度 中1」と受検者数が異なるため参考値とする。

★ 平均正答率を経年で比較すると、小5、小6、中2はC-D層間が狭まった。

◆ D層の理解度を経年で比較すると、特に小学校では小5、中学校では中2が低下している。

○今後の手立て <D層(特に小4と中1)に着目>

「何がわかっている、何がわかっていないか」について、児童生徒が自覚できるようにする。

わからないことに対してあきらめず、粘り強く取り組むために、ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習を取り入れる。

いつでもGIGA端末等を活用して、学習に取り組める環境を整備する。

(カリキュラムセンター)

かわさき GIGA スクール構想の実現に向けて

◇ステップ3の実現に向けた教職員の研修

かわさき GIGA スクール構想がスタートして4年目となり、各学校では試行錯誤しながら様々な実践が行われています。今年度は、GIGA スクール構想に関する希望研修を合計 20 回実施し、500 人を超える教員が参加しました。研修によっては、申込開始後すぐに定員に達したのもありました。

教育学が専門の大学教授や文部科学省初等中等教育局 GIGA StuDX 推進チームを招いての研修では、GIGA 端末を活用して実現するこれからの授業の在り方や先進的な実践事例を学ぶことができました。また、考えたことを受講者同士が Google Chat を用いて交流して、学びを深め、視点を広げることに繋がったようです。デジタルの強みを生かすことで、教員自ら研修効果を高めていました。

GIGA 端末の操作方法を学ぶ研修では、受講者は基本的な操作方法の習得に留まらず、どのようにして授業で活用するか、受講者が担当している授業や学級、児童生徒を想起し、実践的な活用方法を考えながら受講していました。また、発展的な内容の操作研修に参加して、更なるスキル向上を目指す教員も多く見られました。どの研修でも情報活用能力を高めることで子どもの資質・能力の育成に一層つなげていきたいという受講者の熱意が伝わってきました。

学びの質を高めるため、教室では子どもたちが、研修では教員が、GIGA 端末を活用しています。



講師の話聞きながら、Google Chat で受講者同士が交流し、学びを深めている研修の様子です。

◇市制 100 周年かわさき GIGA フェスティバル

令和 4（2022）年から行ってきました「かわさき GIGA フェスティバル」は、市制 100 周年の今年度は 9 月 7 日（土）に第 1 弾、11 月 9 日（土）に第 2 弾と 2 回行いました。

第 1 弾は、渋谷にある Google オフィスで、Google for Education の社員が講師となり、イベント参加者は Google Workspace for Education のアプリケーションの使い方等について学び、川崎市の魅力を伝えるスライドづくりをとおして、未来の自分や川崎市について考えるといった活動を行いました。



子どもたちは、素早いタイピングやインターネット検索を駆使した情報収集など、日頃の学習で培われた情報活用能力を発揮していました。

第 2 弾は、NEC 通信システムとの共催により、NEC 玉川ルネッサンスシティホールで、市制 100 周年にちなんだ単語や文章を速く打ち込む「タイピングコンテスト」や、市制 100 周年に関するクイズにインターネット検索を駆使して答える「川崎検索クイズ」、NEC 通信システムの方から将来の夢につながる話を伺う「教えてプロフェッショナル」などを行いました。

日常の学校生活で身に付けた情報活用能力を発揮する中で、参加者同士が互いを認め合いながら取り組むことができました。

（情報・視聴覚センター）

川崎市総合教育センターでの相談について

総合教育センターでは様々な相談をしています。

1 教育相談

お子さんの教育に関する様々な悩みごとや困りごとなどの相談を行っています。対象は、就学後～高校生までの本人及びその保護者です。基本的に学校から申込みます。

学校生活に関することや、性格や行動に関すること、子育てに関することなどについて相談することができます。まずは、保護者の方のみの面談で、相談の内容を詳しく聞かせていただき、その後の相談の流れについて検討していきます。

相談を通して、子どもの考え方や行動の特徴などについて、家庭と学校が理解し、支援を行っていくことで子どもが安心して楽しく生活を送れるようサポートします。

2 就学相談

就学相談では支援を必要とする子どもの就学について相談をします。対象は、次年度4月に就学を迎える方で、「学びの場」として特別支援学校、特別支援学級を検討されている方になります。ご本人の教育的ニーズ、個々に応じた支援体制、環境（人的環境・物的環境）などから、「学びの場」について検討していきます。

申込についてはwebページを参照のうえ、保護者より各相談室への郵送してください。


3 入級相談

小学校・中学校の通常の学級に在籍している児童生徒で、特別支援学級への入級を検討する際の相談です。在籍している小学校・中学校では、支援教育コーディネーターが中心となり、学級担任、教科担任のほか、様々な教員が通常の学級での子どもの支援を進めています。しかし対象児童生徒の状態によっては、特別支援学級の方がより適した支援体制を構築できる場合もあります。入級相談では、通常の学級ではなく特別支援学級での学びが適しているかどうかなどについて専門的に相談を進めます。

相談の申込は学校からになります。

4 その他

その他、電話相談、家庭訪問相談、24時間子供SOS電話相談、子ども専用相談、メール相談などについては総合教育センターのホームページをご確認ください。

	教育相談	就学相談	入級相談	その他
対象	就学後～高校生 (本人と保護者)	次年度4月に就学を迎える方(本人と保護者)	小学校・中学校の通常の学級に在籍している方 (本人と保護者)	電話相談・家庭訪問相談・24時間子供SOS電話相談・子ども専用相談、メール相談など
内容	教育に関する様々な悩みごとや困りごとの相談	特別支援学校・特別支援学級への就学を検討する際の相談	就学後に、特別支援学級への入級を検討する際の相談	

子どもの活動の様子の確認や、子どもとの面談は、プレイルームで行います。リラックスした雰囲気の中、安心して担当と会話をし、様々な課題に取り組めるよう工夫しています。



溝口相談室	高津・宮前・多摩・麻生区にお住まいの方	844-3700
塚越相談室	川崎・幸・中原区にお住まいの方	541-3633

(特別支援教育センター・教育相談センター)